

平成三十年度 推薦入試 学力検査 (国語)

※答えは解答欄に記入

受験番号
名前

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

発表当時はまるで問題にされなかった作品が三十年、五十年後には古典として扱われるようになることがすくなくない。その反面、あらわれると、たちまち話題作になり、一世を※風靡したのに、いつとはなしに忘れられて、十年もすれば完全にa葬り去られるといった作品もある。それが作品の運命である、といった言い方もできるが、すこし細かく考えると、①時間と空間が作品に及ぼす作用の結果が評価の※消長という形をとるのだと解することもできるようになる。作品という表現が、時間、A歴史的世界と、空間、A社会的世界を移動して行くとき、この二つの世界に対してまったく何の影響も与えないということはない。そのかわり、二つの世界もまったく死んだ空白なのではなく、作品に対して目に見えない作用を及ぼす。作品は好むと好まざるとにかかわらず、②それを受けて、すこしずつ変貌する。評価のbヘンセンはその一部のあらわれである。

作品が印刷されているとき、※テキストの本文はたやすく改変されることがないから、時間と空間の作用は本文の変化にあらわれるのでなく、その作品を見る視点や解釈の枠組みに及び、それを通じての変化をおこす。時間と空間はもちろん物理的存在ではなく、背後にはつねに人間がcヒカえている。ただ、その人間が作者のように特定の個人ではなくB多数の集団である。そういう社会的現象をここでは仮に、時間と空間と呼んだ。

コピー、すなわち異本は、この時間と空間が生み出すものである。しかも、コピーがまったく無機的、機械的なコピーならともかく、C的なコピーであれば、必ず原形とは違ったものになるはずである。原形からの時間的、空間的距離が大きくなればなるほど、それに比例して、異本との差異も大きくなる。文学史上の古い作品はかなり大きな異同をもつ異本群にかこまれているのが普通である。

逆に言えば、③作品はそのままの形では生き残れないということである。書物の形をしている作品が後世に伝えられる場合、外形的にはもとのままのものが存続しているように見えるが、それをとりまく社会や歴史の条件が変わっている。読者が変化してしまえば、同じ本が同じように読まれない。目に見えない異本になっている。

※口誦文芸の時代には形に見えない異本になる必要がなかった。異本はほとんどすべてはつきり形にあらわれたからである。異本をつくる力のない原形には、※亡佚の運命が待っている。異本は作品の生命力のあかしである。文字を用いるようになって、この異本の自由な発動がdオサえられるようになり、さらに印刷が一般的になって、異本は目のe敵にされるに至った。

(『異本論』外山 滋比古 著)

※風靡…全ての人のある方向に従わせること。

※消長…勢いが盛んになったり、衰えたりすること。

※テキスト…テキスト

※口誦…暗記している文句などを声に出して言うこと。

※亡佚…にげうせる。散りうせる。

問一 傍線部a～eのカタカナは漢字に改め、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 Aに入る接続語を本文中から探し答えなさい。

問三 傍線部①「時間と空間が作品に及ぼす作用」について具体的に述べている箇所を本文中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点を含む)

問四 傍線部②「それ」の指示する内容を本文中から八字で抜き出しなさい。

問五 Bに入る適語を次の中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 圧倒的 イ 選抜的 ウ 絶対 エ 不特定 オ 熱狂的

問六 Cに入る適語を本文中から探し答えなさい。

問七 傍線部③「作品はそのままの形では生き残れない」理由について具体的に述べている一文を本文中から抜き出しなさい。

問八 筆者は「異本」の価値はどのようなものだと考えていますか。簡潔に述べている一文を本文中から抜き出しなさい。

「(2) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

「本文にいたるまでのあらすじ」

学校に反抗し続け、解散を命じられた水泳部。学校の言いなりになるくらいなら解散すると決めた部員の「おれ」、イタチ、トンコ達。しかし、在日朝鮮人の李だけが解散に反対した。意見が違ふ李を仲間はずれにした部員達に李の父親が話し合いを求めて来た。

しばらくして、男は[A]と言った。

「オリンピックに黒人の水泳選手がいないのはなぜだか知っているか」

おれたちは顔を見合わせた。

「泳ぎの^aセツビが、もともと白人のために作られたものやからや」

①それが、おれたちと何の関係があるのやという表情を、みんなした。

「つい最近まで、日本でもそんなことがあったよ。アメリカ人専用の遊泳用の海岸が沖縄にあつて、地元の子どもたちは^bカナアミ越しに、その海を見ていた。もともと自分たちの海なのにね」

男は何を言いたくて、そんな話をしているのだろう。

「ぼくはね。小さいときから泳ぐのが好きだったよ。日がな一日、河で泳いでいた。みんなフリチンでね。楽しかったよ。泳ぐのが楽しくなくなったのは、君たちの年頃からだ。君たちも知っているように、当時、朝鮮は日本の植民地だった。日本人も朝鮮人もみな兄弟などといったが、それは口先だけだったよ。日本人と朝鮮人の生活の差は比較にならないくらいひどいものだった。水泳の競技会があつたんだよ。勝つのは日本人で、負けるのはいつも朝鮮人だ。わかるかい。オリンピックに黒人の水泳選手がいないのと^②同じ理屈だよ。朝鮮人は負けじ魂の強い民族だ。日本人と同じようにね。ぼくたちは悔しがったよ。プールで泳げないから、河で練習したんだ。河の流れに逆らつて歯をくいしばつて練習したよ(1)」

イタチもトンコも、いつの間にか[B]を光らせて、男の話を聞いていた。

「どこの人間だつてやればできるんだ。日本人を負かす朝鮮人が出てきた。いい日本人もいくらかはいたけれど、^③悪い日本人の方が多かったよ。日本人を負かすといじめられた。ぼくは[C]だったから、いじめられてもいじめられても練習をして試合に出た。」

(2)

みんなは、男のたくましい[D]をそつと見た。

「ドイツの選手が来たとき、はじめて国際試合に出たよ。うれしかったよ。頑張つて決勝で三着に入った。日本、ドイツ、朝鮮の順だった。日本の国旗があがつた。ドイツの国旗があがつた。それから。あがつたのはまた日本の国旗だった。ぼくは泣いたよ。カンシユウはうれし泣きと思つたのだろうが、^④ぼくは悔しくて泣いていたんだ。[E]、ぼくは水泳をやめた(3)」

(灰谷健次郎『水の話』による)

問一 部a、b、cのカタカナを漢字で書きなさい。

問二 本文中の[A]にあてはまる最も適切なことばを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア きつぱり イ ぼそぼそ ウ ぽつり エ ずばずば

問三 傍線部①「それ」が指している内容を「こと」に続く形で本文中から十八字で抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問四 傍線部②「同じ理屈」とあるが、その内容として最も適切なものを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 筋肉の付き方が、黒人と同じように水泳には向いていないこと。

イ 水泳のセツビ、競技会がもともと日本人の為のものであること。

ウ 日本人は水泳の練習のためにたくさんお金をかけることができたこと。

エ 日本人も、白人と同じで、負けず嫌いであつたこと。

問五 傍線部③「悪い日本人」とあるが、どういう日本人のことを言っているのか。内容として最も適切なものを、次のア～エまでの

中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 差別をし、いじめをする日本人 イ 先生に反抗する日本人

ウ 息子を仲間はずれにする日本人 エ 水泳で自分に負けた日本人

問六 本文中の[B] [D]にあてはまる最も適切なことばを、次のア～エまでの中から選んで、それぞれそのかな符号で答えなさい。

ア 目 イ 腕 ウ 口 エ 首

問七 本文中の[C]にあてはまる最も適切なことばを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 薄情 イ 従順 ウ 純情 エ 強情 オ 激情

問八 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適切な箇所を、次のア～ウまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

そして少しずつ名の知れた選手になつていつたんだ

ア 本文中の(1) イ 本文中の(2) ウ 本文中の(3)

問九 傍線部④「ぼくは悔しくて泣いていたんだ」とあるが、このときの男の心情説明として最も適当なものを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 大会運営側のミスで国旗が間違つて出てきてしまったことが悔しい。

イ 優勝できなかったことが悔しい。

ウ 日本人だと間違えられたことが悔しい。

エ 朝鮮人として差別に耐えてきたことが報われなくて悔しい。

問十 本文中の「E」にあてはまる最も適当なことを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア しかし イ つまり ウ また エ それから

問十一 本文の内容として最も適当なものを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 水泳というスポーツを通してみた朝鮮の人に対する差別の話。

イ 学校の部活動で起こった悪質ないじめの話。

ウ 水泳という競技において勝つための必勝法の話。

エ 水泳というスポーツを通してみた努力の大切さの話。

